

【世界遺産：藤井寺ウォーク】

コース：道明寺駅～「道明寺天満宮」鳥居前広場 点呼・体操～道明寺天満宮～道明寺(尼寺)～三ツ塚古墳～仲姫命陵古墳～古室山古墳～赤面山古墳～大鳥塚古墳～応神天皇陵古墳 アイセルシュラホール(昼食)～仲哀天皇陵古墳～葛井寺～辛国神社近鉄「藤井寺」駅(解散)



近鉄道明寺駅前広場



商店街を天満宮へ



天満宮



土師窯跡、登り窯復元(埴輪等を作っていた)



サークル長点呼

本日の担当 藤村さん、藤井寺市観光ボランティアの会の方



藤井寺市観光ボランティアの会の方紹介
ボランティアの会の方に案内を頂く(A,B,C班分)



準備運動(ラジオ体操)



A班ボランティアの方説明



B班ボランティアの方説明



C班ボランティアの方説明



出発



1400年の歴史を持つ菅原道真ゆかりの寺



小林一茶の句碑(青梅や 餓鬼大将が 肌ぬいで)



参道正面にある石鳥居の扁額(正一位太政大威徳天神)



なで牛



道明寺天満宮



ボランティアガイドさんの説明



復元修羅(重量物を運ぶ運搬用具)



元宮 土師社 (道真公を祀る天満宮が創建(947年)されるまでは. 土師社が本宮でした)



道明寺



道明寺山門

どう みょう じ
道明寺 Doumyouji Temple

道明寺は、古墳遺宮に携わった土師氏の氏寺(土師寺)として7世紀代に建立されたと考えられます。土師氏の子孫の菅原道真公ゆかりの寺で、道真公の別名道明から道明寺と呼ばれるようになりました。

当寺はもとは道明寺天満宮の南側にありましたが、明治時代の神仏分離により天満宮と分離され、現在地に移転しました。

江戸時代の境内図から、四天王寺式伽藍配置であったことが知られます。

本尊の十一面観音菩薩立像は、檜の一木造で、緋部にいたるまで極密な彫技法が施された、代表的な檀像彫刻として国宝に指定されています。



道明寺境内図 (江戸中期)



清原様提供



本尊の国宝十一面観音菩薩像 菅原道真公が当寺に滞在して手ずから刻んだと伝えられています



道明寺の境内に木櫨樹(もくげんじゅ)

菅原道真公が40歳の時に道明寺で大乘經典のお経を写経し、それを納めたところから生えた木が木櫨樹だそうです



三ツ塚古墳 東側1は八島塚(やしまづか)、真ん中2は中山塚(なかやまづか)、西側3は助太山(すけたやま)



鍋塚古墳(なべづかこふん)



澤田八幡神社



境内に踏切がある珍しい神社 澤田八幡神社



境内に踏切がある珍しい神社 澤田八幡神社



仲津山古墳(仲津姫命 仲津山陵)



仲ツ山古墳 形状は前方後円墳（「仲津山陵」として第15代応神天皇皇后の仲姫命の陵に治定されている）



古室山古墳 形状は前方後円墳。古市古墳群を構成する古墳の1つ



チョウトンボ 清原様提供



清原様提供



古室山古墳山上より



赤面山古墳（西名阪自動車道の下橋脚が古墳の位置を考えて設置されている。古墳上の高速道の橋がアーチ状のようにになっている。高速下の道路が古墳を避けように急カーブになっている。）



大鳥塚古墳 形状は前方後円墳



応神天皇陵古墳



「応神天皇陵(おうじんてんのうりょう)」誉田御廟山古墳(こんだごびょうやまこふん) 前方後円墳



最大の体積を持つ巨大古墳(総長700mを越える巨大な前方後円墳で、墳丘長は425m



応神天皇陵古墳(清原様提供)



アイセルシュラホールへ向かう



応神天皇陵古墳外濠外堤 (誉田御廟山古墳の外濠跡)



蕃所山古墳 (この円墳に沿って道路が作られている)



応神天皇惠我藻伏岡陵倍塚 宮...



ホテイアオイ



ハンゲショウ



アイセルシュラホール(船形埴輪と修羅(しゅら)をモチーフとした建物)



アイセルシュラホール内で昼食



歴史展示コーナー見学



小修羅



水鳥形埴輪



円筒埴輪の形をした棺



遣唐使船「いのまなり」



古代の瓦





藤の森円墳横穴式石室 円墳 墳丘長 22m

古市古墳群

仲哀天皇陵 (岡ミサンザイ) 古墳

仲哀天皇陵古墳 考古資料館 古墳

Chual-tenno-ryo Kofun (Mausoleum of Emperor Chuai)

古墳時代 中期

古墳の形 前方後円墳

墳丘の全長 7.95m

出土品の本数 円筒埴輪、板、土師器、土師器、土師器、土師器

墳丘は3段に築かれ、くびれ部の東側にのみ突出しが認められています。築期時代に築に利用されたため墳丘は改変を受けています。墳丘の周囲には埴輪の帯がめぐり、墳上にも円筒埴輪が埋め込まれました。墳丘や堤からは円筒埴輪、形象埴輪が出土しています。築造時期については、諸説あるものの中順と考えられています。

Chual-tenno-ryo Kofun (Mausoleum of Emperor Chuai)
(The Mound of Prince of Tame)

Period: Middle Kofun Period
Nearby sites: Kuroda Kofun
Total Length of the mound: 7.95m
Excavated items: Cylindrical haniwa (flat-bottomed, wide-shooped, and trapezoidal haniwa), flat-bottomed, wide-shooped, slip-slipped, wide-shooped, and trapezoidal haniwa.

The mound was built in three tiers, and a projection is attached to only the east side of the constricted part. The mound has undergone alterations, as it was used as a of the constricted part. The mound has undergone alterations, as it was used as a of the constricted part. The mound has undergone alterations, as it was used as a of the constricted part.

岡ミサンザイ古墳 (仲哀天皇陵)



岡ミサンザイ古墳 (仲哀天皇陵)



岡ミサンザイ古墳 (仲哀天皇陵)



辛国神社由緒

(相殿)
 総持日命
 天照彦根命
 市村鳥姫命
 伊弉諾命
 伊弉册命

御祭神

当社は、五世紀後期第二十一代雄略天皇の御代に創建された式内社であります。

日本書紀に「雄略天皇十三年春三月、御香長野邑を物部日大連に賜ふ」とあり、古代御香長野邑の地とされる今の藤井寺の地に物部日大連が、その祖神 総持日命を本尊としたのが当社の始まりです。その後、六世紀後半物部氏宗家の守屋大連の没後、一族の物部辛国連が、氏神として祭祀したことにより、辛国神社と称するようになりました。

また、平安時代に入り、六国史の三代実録には清和天皇貞観九年二月二十六日、河内国志紀郡辛国神を官社に領るとあり、朝廷の神祇官の神名帳に記載され、平安時代には格式ある官社に列せられています。その後室町時代に、河内守護職の島上基國氏が、社領二百石を寄進のうえ社頭を整備し、命代春日大社から天照彦根命を勧請合祀しました。以後、庶民の信仰を深め、江戸時代の古文書や絵図には、岡村氏神・春日大明神と書かれており、江戸時代後期まで春日大明神「春日社」と称されていました。

そして時代が明治へと移る頃、復古情勢の中、古来の名稱である「辛国神社」に改称され、さらに明治四十一年には旧藤井寺村の村社であった長野神社のご祭神素戔嗚尊を合祀して現在に至っております。

辛国神社の祭事

歳旦祭 一月一日
 前祭 部分の日
 春日祈禱祭 春分の日
 月次祭 毎月一日
 永年月の大祓式 六月二十日
 夏祭 七月十七日
 御例祭 十月十七日
 新嘗祭 十月一日



辛国神社



長野神社から持ってきたのか?



辛国神社の鳥居は両部鳥居といい、厳島神社や熊野大社など海に関係する神社に使用されている事が多い



葛井寺西国第五番札所



南大門 葛井寺の本尊(国宝)千手観音坐像等説明 (千の手”と”千の目”を持つ千手観音様です。頭上に十一面をいただき、錫杖や宝輪、数珠などをもつ「大手」に、孔雀のように広がる1001本の「小手」、そして正面の合掌手を合わせ「1041本」の手を持ちます。さらに、掌にはそれぞれ眼が描かれております。



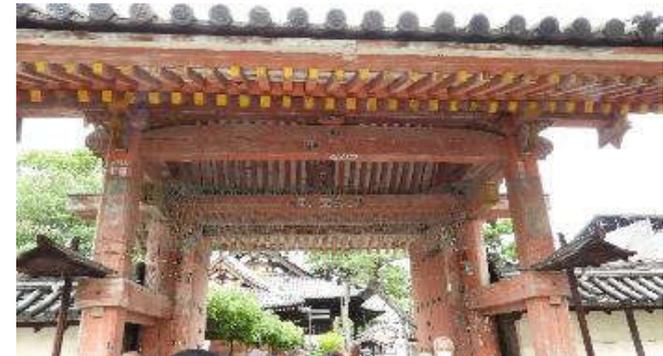
西国第五番札所 紫雲山 葛井寺 境内



西国第五番札所 紫雲山 葛井寺 境内 本堂



専心龍乗観音



四脚門 (国重要文化財)



四脚門 藤井寺駅で解散

みじ い であ
葛井寺 Fujiidera Temple

葛井寺は、7世紀代に葛井氏の氏寺として建立されたと考えられます。その後、荒廃した時期もありましたが、何度かの修理や改築を経て現在にいらっています。

当寺が所蔵する室町時代の「葛井寺参詣圖説書」には堂塔は、栗山寺式伽藍配置として描かれており、創建時にも同様の伽藍配置を取っていたものと推定されます。現在では、境内に残された、母心礎をはじめとしたいくつかの礎石に当時の名残をとどめています。

本尊は明治乾訪蓮の千手観音菩薩坐像で、芸術的にも優れ、天平時代の代表的な仏像として国宝に指定されています。